



学校だより

令和6年2月1日

2月号

学校教育目標
～生き生き日枝っ子～

横浜市立日枝小学校



「あいさつを通して」

校長 加藤 智敏

北陸地方では積雪が多く、復興がなかなか進まないとの報道を見聞きします。被災された地域の日も早い復興を心よりお祈り申し上げます。

毎朝8時からの登校時間に合わせて、学校裏手の南吉田町にある交差点で交通整理をしています。お三の宮通りは、朝から仕事に向かわれる方の通り道として交通量も多く事故につながらないように子どもたちを誘導したり、指導したりしています。その際には多くの子どもたちと「おはよう」「おはようございます」と挨拶を交わしています。私から挨拶の言葉を掛けることが多いですが、自分から進んで挨拶する子も増えてきて嬉しく思っています。また、私は交差点を通る地域の方々、他地域から本校の近隣に出勤される方にもできるだけ挨拶するように心掛けています。はじめは会釈程度だった方々も今では声を出して「おはようございます」と言ってくれるし、中には「寒い中ありがとうございます」と声を掛けていただける方もいらっしゃいます。自転車やバイクに乗っている方も挨拶をしてくださいます。私が出張等で出られなかった翌日等は「どうしたんですか？体調崩したんですか？無理しないで」と慮ってくださる方や「若いころ私はね…」と身の上話など雑談を交わすことができるようになった方々もいます。交差点に立ちながら、挨拶をきっかけに関わりが増していること、継続することでその関わりも変化していることを実感しています。

子どもの頃に『スクールウォーズ』という学園物のTVドラマが放映されているのを見ていました。ドラマは荒廃した学校が、実在の元ラグビー日本代表の山口 良治氏をモデルとするある教員の赴任をきっかけに変わっていくというもので、実際にモデルとなった学校は、ラグビー部を山口氏が指導し、後に全国大会で優勝を成し遂げます。その後も日本代表の故平尾 誠二氏をはじめ、日本代表の選手や数々の名選手を輩出しています。これらの話はNHKの『プロジェクトX』でも取り上げられたことで有名です。ドラマの中で子どもの頃の私が感化されたのは、主人公の教員や同僚の教員が子どもたちに正門で挨拶を続けるシーンです。最初は声を掛けても見向きもしなかった子どもたちが、挨拶を続け、関わり続けることで少しずつ変化していきます。3月に卒業を迎える本校の6年生の何人かは卒業文集の中で、挨拶をすることに勇気が必要だったことや、なかなか自分からできなかつたことを書いています。しかし、その後勇気を出して一歩踏み出すことで自身が大きく変わったとも書かれていました。実は私自身も恥ずかしかったり、声を掛けて挨拶が返ってこなかったらどうしようと考えたりして苦手だったように思います。しかし、ドラマで挨拶を交わすシーンを見て、挨拶によって人は関われる、そして人を喜ばせることにもつながるのかと思い挨拶を心掛けるようになったことを今も覚えています。校長になった今、あのドラマの主人公の気持ちとつながるところがあるなど感慨深い思いで、毎朝交差点に立っています。挨拶は本当に一瞬のやりとりですが、人との出会いをつなげるもの、そして、人を大きく変えることのきっかけになるものであることを実感しています。

2月に保健委員会主催の「あいさつ週間」の取組が行われます。一人でも多くの児童が、挨拶をきっかけに、人と出会い、つながり、自分自身を変える契機になるような経験をしてもらえたらと思っています。保護者の方々や地域の方々にも児童が挨拶をすることがあるかと思っています。是非とも奨励し、子どもたちの学びと育ちにつなげていただけたらと思っています。ご支援よろしく願いいたします。